はじめに

世界史文化史の講座にようこそ！

実際，ある意味，文化史こそが真の世界史といえる。

世界史とは，宗教勢力の拡大とそれにともなう摩擦の歴史。教義解釈をめぐる論争と宗派間の抗争，思想をめぐる行ったり来たりの冷戦熱戦のことだから。

楽園を追放された罪深き人類の神を探求する営みこそが世界史である。

人が人を支配し害をおよぼしてきたプロセス，虐げられた声なき者たちの叫びの系譜。

絶望した人類が望みを託した各宗教の建造物は豪華絢爛を極め，それらは世界の歴史遺産となっている。

そして，小説や演劇やオペラの題材の多くは，神話や聖典からとられている。

目に見える事件の背後には，目に見えない欲望が，欲望の背景には思想，信条，崇拝が存在する。

人類の欲望の体系，世界文化史から目をそむけてはいけない。

村山秀太郎

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

目　次

《人物資料》　p3

確認テスト　第１講　p39

確認テスト　第２講　p41

確認テスト　第３講　p43

確認テスト　第４講　p45

確認テスト　第５講　p47

確認テスト　第６講　p49

確認テスト　第７講　p51

確認テスト　第８講　p53

確認テスト　第９講　p55

確認テスト　第10講　p57

確認テスト　第11講　p59

確認テスト　第12講　p61

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《人物資料》

ホメロス

B.C.８世紀の最古にして最大の叙事詩人。

トロイヤ戦争での英雄たちの活躍を歌う『**イリアス**』24巻約15000行，トロイヤ戦争の英雄オデュッセウスの苦難に満ちた帰還の物語『**オデュッセイア**』24巻約12000行で有名。盲目の詩人であったと伝えられるが，実在を疑う説もある。その叙事詩はポリス成立期に，それまで様々に伝えられていたエーゲ文明時代の口伝が集成されて成立したと考えられる。

ヘシオドス

B.C.700年頃の農民詩人。

父の死後，相続争いをした放蕩・怠惰な無頼の兄弟に対し訓戒する形式で貴族を批判し労働の尊さを歌った『**労働と日々**』で有名。宇宙の始まりである混沌のカオスからついにはゼウスが統率する世界が成立するまでを詠んで，ギリシア神話や伝説を体系的にまとめた『**神統記**』(『神統譜』)の作者でもある。

サッフォー

B.C.612頃～？。ギリシア叙情詩を代表する**女流詩人**で**レスボス島出身**。

多くの少女に囲まれて生活していたことが知られており，ほとんど断片しか伝えられていないが叙情詩には少女たちへの恋愛を歌ったものが多い。レズビアンとは「レスボスの女」の意。ただ彼女自身は男と結婚し一女をなしている。

アナクレオン

B.C.570頃～？。古代ギリシアの叙情詩人。

僭主の宮廷で贅沢な生活を送りながら**恋と酒を歌った叙情詩**を書いた。『アナクレオンテア(アナクレオン風)』という言葉が生まれるほど彼の作品は後に模倣された。

ピンダロス

B.C.518～B.C.438。古代ギリシアの叙情詩人。

アテネで詩と音楽を学び20歳で早くも名声を得る。オリンピアなどの全ギリシアの**４大祭典の競技祝勝歌**が有名。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

アイスキュロス

B.C.525～B.C.456。アテネがペルシア戦争に勝利し
全盛期を迎えた時代に活躍した**３大悲劇詩人**の一人で一番古い。

マラトン・サラミスの戦いに従軍したのが生涯の誇り。代表作**『アガメムノン』**は，トロイヤ戦争の総大将でありながら勝利して帰国したとき，従兄弟と，それと浮気していた自分の妻に殺されるアガメムノンと，その息子で母と叔父を倒して父の仇を討つオレステスを取材したものである。

ソフォクレス

B.C.496頃～B.C.406。ギリシアの**３大悲劇詩人**の一人で彫刻・建築の
フェイディアスや政治家ペリクレスと同時代の人物。

将軍に選ばれペロポネソス戦争で活躍し国民的英雄に。代表作**『オイディプス王』**は，主人公がテーベを襲った疫病の原因を探るうちにそれが先王を殺した犯人の穢れによるものであること，その犯人とは自分であること，自分の妃は先王の妃で自分の実の母であることを知り，自分の両眼をくりぬくという筋。父に反感を持ちつつ母の愛情を得ようとする男児の心理を「エディプス・コンプレックス」というがその語はこの悲劇に由来する。

エウリピデス

B.C.485頃～B.C.406頃。**３大悲劇詩人**の最後の一人。

特に女性心理描写に優れる。代表作**『メディア』**は，夫に捨てられた魔女メディアが愛情回復に努めた結果，やがてそれが夫への憎しみに転じメディアはついに夫に苦痛を与える目的でわが子を殺し夫の新妻とその父を魔法で焼き殺す話。あまりの革新性ゆえに同時代には評価されなかったが，後生には３大悲劇詩人のうち最も愛好された。

アリストファネス

B.C.450頃～B.C.385頃。古代ギリシアの代表的喜劇詩人。

ペリクレス時代のアテネに生まれ青年期壮年期がペロポネソス戦争期。**『女の平和』**は，女たちがセックスを拒む性的ストライキという方法で男たちに戦争をやめさせる話。**『蜂』**ではペリクレスの直接民主政を皮肉った。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ミュロス

B.C. ５世紀に活躍した彫刻家。

初めて**躍動する人体**の動きを据えることに成功した彫刻家。代表作は『円盤を投げる男』。

ポリュクレイトス

B.C. ５世紀に活躍した彫刻家。

フェイディアスと同時期に活躍しライバルであった。フェイディアスは神像彫刻で名声を博したのに対し，オリンピア祭典の競技者の彫刻で知られる。頭部が全体の七分の一であるのが最も美しいと考えた。代表作は『**槍をかつぐ人**』である。現存するのは模作。

フェイディアス

B.C.490頃～B.C.430頃のアテネの彫刻家。

ペリクレスの知遇でアクロポリス復興の顧問となり**パルテノン神殿の再建**を監督し，象牙と黄金で高さ12メートルの『**アテナ女神像**』を制作したと伝えられる。アテネの国立考古学博物館に現存するのは模像。パルテノン神殿が完成すると彼の名声は反ペリクレス派の憎むところとなり女神像の黄金を着服したと告発され獄死したと伝えられる。

プラクシテレス

B.C. ４世紀にアテネで活躍した彫刻家。

女神を裸体で表現することを試み自分の愛人をモデルに『**ヴィーナス像**』を制作した。B.C. ５世紀のフェイディアスなどは神々の威厳や崇高さを表現したのに対し，流動的な洗練された優美さをもって人間的・感覚的に表現する彫刻を生み出した。

タレス

B.C.624頃～B.C.546頃。古代ギリシアの哲学者で，のちにアリストテレスにより
最初の「知恵の探求者＝自然哲学の祖」とされた。

イオニア地方ミレトスの出身。万物の根源を**水**とした。ピラミッドの高さの測定，ナイル川の氾濫の原因の考察などをした。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

アナクシマンドロス

B.C.610頃～B.C.546頃。ミレトス生まれでタレスの弟子。

万物の根源は**無限なるもの**であると唱え，人間は魚から進化したという一種の進化論を唱えた。

ピタゴラス

B.C.582頃～B.C.497頃。サモア出身。万物の根源は**数**であるとし，
ピタゴラスの定理を発見したことでも有名。

輪廻転生を説くピタゴラス教団を創設。この思想がギリシアの伝統に反するとして教団は異端視され迫害された。

アナクシメネス

B.C.585頃～B.C.525頃。ミレトスの哲学者。

タレス，アナクシマンドロスとともにミレトス学派。万物の根源を**空気**とした。

ヘラクレイトス

B.C.544頃～不明。エフェソスの名門に生まれながら財産は兄弟に相続させ
孤高の哲学者として時代の文化を批判し同時に民衆を蔑視した。

「万物は流転する」と述べ，根源は**火**であるとした。

デモクリトス

B.C.460頃～B.C.370頃。万物の根源は**原子**と説く。

トラキアの富豪に生まれエジプト，オリエントを旅行し学院を創設。イオニアの自然哲学の完成者として位置づけられる。霊魂も原子からできていると説き，のちのエピクロス派に影響した。

プロタゴラス

B.C.485頃～B.C.415頃。
トラキア生まれで「**ソフィスト＝智者**」(弁論・修辞を教えた職業的教師)と名乗った最初。

「**人間は万物の尺度**，存在するものについては存在することの，存在しないことについては存在しないことの」と述べ普遍的真理を否定し相対化し，自然哲学から人間哲学へと転換するきっかけとなった。ペリクレスに依頼されアテネの法律を起草。無神論者と告発されシチリアに逃れる途上に没した。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ソクラテス

B.C.469頃～B.C.399。アテネ近郊生まれ。

普遍的真理の存在を主張し，ソフィストの相対主義を批判したアテネの哲学者。知とは徳であるとする**知徳合一**を説いた。アテネの街角に出てはソフィストの授業で知恵を授かった気になっている青年たちに論争を挑み，対話法（産婆術）といわれるその討論法で無知の自覚を促す。一方でデルフォイの神託を重んじ，自己の内に響く神の声に耳を傾ける神秘の人であり，対話法で用いた**「汝自身を知れ」**という言葉はデルフォイのアポロン神殿に刻まれていた言葉である。団子鼻の怪異な容貌でアテネを歩き青年たちをつかまえて論争を挑む彼は奇人変人扱いされ，アリストファネスの喜劇『雲』では，代表的ソフィストとして嘲笑と憎悪の対象にされた。そのような雰囲気の中でペロポネソス戦争後の衆愚政治下のアテネで，デマゴーグ（煽動政治家）の代表格アルキビアデスと付き合いがあったこともあり，伝統的な神々への信仰を損ない若者を煽動したとして死刑の判決を受け，逃亡の勧めに応じず「悪法もまた法なり」と毒杯をあおって自害した。著作は残さなかった。

プラトン

B.C.427～B.C.347。アテネ生まれでソクラテスの弟子。

『ソクラテスの弁明』『饗宴』により師の学説を発展させた。**『ポリティア（国家篇）』**などで構想した僭主による理想国家をシチリア島のシラクサに建設するのを試みたが失敗。帰国したアテネに**アカデメイア**（学園）を創設し人材育成にはげむ。最大の弟子がアリストテレス。個物に優先する普遍としての**「イデア」**を真に実在するものとした。

アリストテレス

B.C.384～B.C.322。17歳でアテネに出てプラトンの「アカデメイア」に20年間学び教えた。

師の没後各地を旅し，マケドニアのフィリッポス２世に招かれ，のちにアレクサンドロス大王となる王子の教育係になる。フィリッポス２世没後にアテネに行き，学園**「リュケイオン」**を創設した。イデア説を克服し「実体」を説き，それを動かしているのは超越的存在つまり神であるとし形而上学＝神学となる体系的な哲学を構築，関心は哲学だけにとどまらず**「万学の祖」**といわれた。後世のイスラーム哲学，その影響で成立した中世ヨーロッパのスコラ哲学に影響を与えた。著作は**『政治学』**『ニコマコス倫理学』『形而上学』『アテナイの国制』など。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ヒッポクラテス

B.C.460頃～B.C.375頃。小アジア沿岸コス島生まれのギリシア人で**「医学の父」**。

宗教的迷信的風潮を退け，人体の自然治癒力を重んじつつ科学的医学に徹し医者の道徳を説いた。「生命は短く，技芸は長し」は彼の言葉。

ヘロドトス

B.C.485頃～B.C.425頃。小アジア生まれの古代ギリシアの歴史家。

アテネでペリクレス，ソフォクレスと親交を結ぶ。ギリシア語で「探求」を意味する『ヒストリエ＝歴史』を**ペルシア戦争**を題材に**物語風**に著した。「歴史学の父」と呼ばれる。**「エジプトはナイルの賜物」**と述べた。

トゥキディデス

B.C.460頃～B.C.400頃。アテネ生まれの歴史家。

ペロポネソス戦争の『歴史』を著したのは，アテネを追放になっていたのでスパルタ側からの情報を得ることができたため。ヘロドトスの物語的手法に感激しつつも，厳密な史料批判と**科学的**な方法をとった。ペリクレス時代のアテネの民主政治を「事実上は独裁」と述べた。

ネアルコス

B.C.360～B.C.312。クレタ島出身。青年時代からのアレクサンドロスの戦友で武将。

インダス渡河断念後，一隊を率いてインダス川ペルシア湾経由でユーフラテス川をさかのぼり『**周遊記**』を著したが当時のインド事情を知るうえでのてがかりとなり，ローマ時代の地理学者ストラボンの『地理誌』にも再録されている。

ディオゲネス

B.C.400頃～B.C.325頃。古代ギリシアの哲学者，黒海南岸シノペ生まれ。

アテネで**犬儒派**（キニコス）から学ぶ。世俗の栄華を否定し各地放浪，奇行で知られ樽の中を住居とした。アレクサンドロス大王が出向いて招いても「陽をさえぎると寒いから樽の前からどいてくれ」と拒否。のちのストア派のゼノンに影響。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ゼノン

B.C.335～B.C.263。古代ギリシアの哲学者，キプロス出身でフェニキア人の混血といわれている。

アテネの講堂の柱廊ストアで講義したから**ストア派**といわれるようになった。自然と合致して内的満足を得ることから「心の平静」を求めることをめざした。その方法として**禁欲**を説いた。72歳の頃，怪我をして生きている価値がないと自殺。

エピクロス

B.C.342頃～B.C.271頃。古代ギリシアの哲学者，サモス島出身といわれる。

死や神への恐怖を免れる肉体に苦痛がなく「心に平静」を求めるために**精神的「快楽」**を追求した。これが**エピクロス派**の快楽主義である。のちのエピキュリアンという語は，快楽趣味，食道楽，美食家，快楽主義者などの意味に用いられるようになったが，精神的快楽を追求したのがエピクロス派だから現在の意味とは違う。

エウクレイデス

B.C.300年頃のアレクサンドリアで活躍。

アレクサンドリアのプトレマイオス１世に**「学問に王道なし」**と説いた。19世紀半ばまで**「ユークリッド幾何学」**として絶対的真理と考えられた。

アリスタルコス

B.C.310頃～B.C.230頃。サモス島出身のヘレニズム時代のギリシアの天文学者，数学者。

太陽中心説，**地動説**を唱えたが，無神論者と非難され，16世紀のコペルニクスに確認されるまでは異端扱いだった。

アルキメデス

B.C.287頃～B.C.212。シチリア島シラクサ生まれで，
アレクサンドリアで学問を修めた古代ギリシアの数学者，物理学者。

シラクサの僭主に王冠の真贋の判定を依頼され**「浮体の原理」**を発見。このとき興奮して裸のまま公衆浴場を飛び出した。円周率の近似値計算でも知られる。**第二次ポエニ戦争**では，ハンニバルと同盟してローマと戦いローマを悩ませた。地面に描いた図に熱中していて誤ってローマ兵に殺された。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

エラトステネス

B.C.275頃～B.C.194。北アフリカのキレネの生まれでアレクサンドリアの**ムセイオンの館長。**

アスワンとアレクサンドリアの太陽の影の長さと角度の違いと実際の距離との比例計算から**地球の全周**を計算したが，実測にほぼ近似したものである。

ヴェルギリウス

B.C.70～B.C.19。**ラテン文学黄金時代**の古代ローマ最大の詩人。

アウグストゥス帝の側近の知遇を得て，トロイヤの英雄アエネイスがラティウム王に招かれてローマを建国する叙事詩を描く。これが『**アエネイス**』。ホメロスを意識するが到達せずと感じ，その作品の焼却を命じるがアウグストゥス帝が公表してしまった。

ホラティウス

B.C.65～B.C.８。**ラテン文学黄金時代の詩人**で３大詩人の一人。

若き日にはブルートゥスの軍隊に在籍しアントニウス，オクタヴィアヌスと戦い敗北。ヴェルギリウスと親交があり，かつての敵，アウグストゥス帝に迎えられその治世を讃えた。エピクロス派の哲学に精通，『**叙情詩集**』が有名。

オヴィディウス

B.C.43～A.D.17頃。ヴェルギリウス（温厚で「神のごとき詩人」），
ホラティウス（哲学者の風貌）とともに**ラテン文学黄金時代の３大詩人。**

彼はどうすれば異性の心を捉え恋愛に勝利できるかを考え「愛されるには，まず愛想よくあれ」との結論に至る。社交界の花形であったが，作品が官能的過ぎるとアウグストゥス帝から風紀低下の元凶とされ黒海沿岸に追放になり帰還の願いは聞かれず当地で没する。代表作は『**転身譜**』。

ルクレティウス

B.C.99頃～B.C.55頃。共和政末期のローマの哲学者。

『**物の本質について**』。**エピクロス派**ではデモクリトスの原子論の流れ。宗教を究極の快楽とみなす。心の平静を苦悩と快楽が皆無の状態としてとらえ，近代の唯物主義者に影響。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

キケロ

B.C.106～B.C.43。ギリシア・ヘレニズム思想哲学をローマに紹介した**雄弁家**。

第一回三頭政治に反対して追放，のちポンペイウスと組んだためカエサルにうとまれ，カエサル暗殺後は，反アントニウスの立場に立ちその部下により惨殺され，手と首はローマに曝された。ラテン散文の模範として19世紀までのヨーロッパ文学に影響。代表作は『**国家論**』。

大プリニウス

23～79。古代ローマ帝国の政治家，博物学者。

ゲルマニア，ガリア，アフリカ，スペインに勤務。『**博物誌**』37巻のみが現存。ナポリ湾勤務中に**ヴェスヴィオス火山の大噴火**に際し，視察に赴き窒息死した。

小プリニウス

62頃～113頃。大プリニウスの甥。

帝政ローマ初期に書簡文学で活躍。政治家としては**トラヤヌス帝の信任**。当時のキリスト教徒の記録や叔父に関する記録は貴重。

セネカ

B.C.５頃～65。スペイン，コルドバ生まれの古代ローマのストア派の哲学者。

代表作は『**幸福論**』。陰謀に巻き込まれコルシカ島に流されたが，ネロ帝の母アグリッピナの関与で帰国。**ネロの家庭教師**に。ネロのアグリッピナ殺しに加担，ネロの元老院での弁明文を起草。ネロの暴政がはじまると引退。しかし謀反に加担したとして自殺を強要され，自ら動脈を切り開いた。自分の命の消えゆくさまを書記に記録させた。

エピクテトス

55頃～135頃。ギリシア人解放奴隷の哲学者，**ネロ帝の廷臣**。

ストア派の哲学者。代表作は『**語録**』。禁欲生活を説き孤児院をつくった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ポリビオス

B.C.201頃～B.C.120頃。共和政ローマのギリシア人歴史家。

軍人として，アカイア同盟に尽力したがアンティゴノス朝マケドニアがローマに敗れたとき1000人の人質のひとりとしてローマに送られ，**スキピオ家**の保護を受けて歴史研究に従事した。第３次ポエニ戦争に従軍し**カルタゴ炎上を目撃**した。『歴史』40巻では王政→暴君政→貴族政→寡頭政→民主政→衆愚政と政体は循環すると説く（**政体循環論**）。彼によるとローマが一員制，貴族制，民主制の３要素の混合政体だから世界支配に成功した。

リヴィウス

B.C.59～17。**アウグストゥス帝の側近**のローマの歴史学者。

帝政ローマのスタートという新時代の到来のなかでホラティウスはアウグストゥス帝が演出した「世紀の祭典」のために詩をつくり，ヴェルギリウスは建国叙事詩『アエネイス』を描き，リヴィウスは建国からアウグストゥス帝にいたる『**ローマ建国史**』全142巻（現存35巻）を著した。その名文は「牛乳のような豊かさ」と称えられ，共和政ローマ研究の一級史料として「ローマ史研究の聖書」と位置づけられる。

タキトゥス

55頃～120頃。護民官，コンスル（執政官），属州アジア総督を歴任した政治家。

また『**ゲルマニア**』（B.C.１世紀のカエサルの「ガリア戦記」と並ぶ古ゲルマンの貴重な研究史料），『**年代記**』（アウグストゥス帝からネロにかけて帝政ローマ史）を著した歴史家でもあり，繁栄から退廃に向かうローマ帝国を憂える優れた文明批評家でもあった。

プルタルコス

46頃～120頃。五賢帝時代のギリシア人の伝記作家，歴史学者。

ハドリアヌス帝の愛顧を受ける。『**対比列伝**』では，アレクサンドロス大王とカエサルというように，ギリシアとローマの英雄23組46人と単独４人の計50人を取り上げている。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ストラボン

B.C.64～21頃。小アジアのギリシア人地理学者で哲学者。

アリストテレス派からストア派に転じた。『**地理誌**』はローマ帝国の地域別に風俗，史実，神話，伝説を述べたもの。

プトレマイオス

生没年不明，２世紀のギリシアの数学，天文学，地理学者。

アレクサンドリアで「**天文学集成**」を著し天動説（地球中心説）を体系化した。この書は西ローマ帝国滅亡後の西欧世界では失われていたが，イスラーム世界ではアラビア語に翻訳されて『**アルマゲスト**』（「最も偉大」の意）と称えられ15世紀のコペルニクスの地動説の登場まで不動の権威を保った。

アルクイン

735頃～804。中世神学の祖とされるヨークの生まれの**イングランド**の学者。

イタリアに派遣され帰途，**カール大帝**に招かれ**アーヘン**の宮廷学校を指導。フランク王国のカロリング＝ルネサンスの中心人物になる。

アンセルムス

1033～1109。

カンタベリ大司教として教皇グレゴリウス７世に忠誠を誓い，地上権力との抗争においては教権の優位を説き哲学を神学に奉仕させてスコラ哲学の父といわれる。**普遍論争**では**実在論**の立場で，理性にたいする信仰の優位を説いた。

アベラール

1079～1142。

盲目的信仰を退け理性を信仰に優先させ，神や善など「普遍的」とされる概念も，人間が名づけてはじめて神や善などと理解されるという立場（**唯名論＝名目論**）に立った。アンセルムスに学びパリに学校を開くと全ヨーロッパから学生が集まった。女学生エロイーズに結婚を申し込んだが親族に反対された。『**アベラールとエロイーズの往復書簡**』が代表作。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

トマス＝アクィナス

1225～1274。イタリアの神学者，哲学者。

ナポリ王国のアクィノ領主の家に生まれナポリ大学で学んだのち，家族の反対を退けて**ドミニコ会**の学僧になりケルンとパリで修行し，パリ大学教授に就任する。『**神学大全**』を著してスコラ哲学を大成した。イスラーム経由でアラビア語から翻訳された**アリストテレス哲学**の理論の影響を受けた。ドミニコ会はフランスのリヨンのワルド派や南部のアルビジョワ派の異端撲滅の役割を担い異端審問を積極的におこなう修道会。

ロジャー＝ベーコン

1214頃～1294。イギリスの哲学者，自然科学者。

オックスフォード，パリ大学で学問を修め，オックスフォード大学で講義した。中世ヨーロッパで**観察と実験**の価値を最初に強調，哲学では**イギリス経験論の先駆**である。

ドゥンス＝スコトゥス

1266頃～1308。

トマス＝アクィナス以後，**トマス説に反対し，理性と信仰を区別**したイギリス人。パリ大学で教えていた時，教皇ボニファティウス８世とフィリップ４世の争いに際し教皇を支持しパリから追放されている。絶対的権威アリストテレスとトマス＝アクィナスに挑んだのが彼の学説。

ウィリアム＝オブ＝オッカム

1290頃～1349頃。ロンドンの南のオッカム出身。オックスフォード大学に学ぶ。

唯名論（名目論）を唱え，理性や経験を重視し科学的な思考と近代哲学の道を開く。「教皇のバビロン（アビニョン）捕囚」という状況で反教皇という立場から異端を宣せられたが神聖ローマ（ドイツ）皇帝のもとで活動を続けた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ダンテ

1265～1321。フィレンツェ生まれ。ボローニャ大学で修辞学を学ぶ。

ヴェルギリウスなどのラテン文学に傾倒。９歳のときに一歳下の美少女ベアトリーチェに出会って永遠の恋に落ちたが，彼女は別人に嫁して若くして死んだ。この経験が『**新生**』『**叙情的詩集**』に結実した。42歳から当時俗語として蔑視されていた**トスカナ語**（イタリア語）で『**神曲**』を書き始めた。「地獄編」「煉獄編」「天国編」の三部作。ダンテの宇宙遍歴のあと，ヴェルギリウスが地獄と煉獄へ案内し，ベアトリーチェに連れられ天国に達し「三位一体」の秘蹟を理解する内容。イタリア国民文学の祖といえる。

ペトラルカ

1304～1374。最初の人文主義者と称されるフィレンツェの叙情詩人。

教会のミサで知り合った貴婦人ラウラへの想いを『**カンツォニエーレ**（叙情歌集）』に代表されるイタリア語の抒情詩に託した。彼の本領はむしろ古典ラテン語研究にあり古典文化復活という意味でルネサンスを準備したといえる。70歳の誕生日にパトヴァで死亡。遺言によって財産の一部が親友のボッカチオに贈られた。

ボッカチオ

1313～1375。

フィレンツェ近郊の富裕な商人の私生児として誕生。ナポリに移住，ナポリ時代の蓄積をもとに『**デカメロン**（10日物語）』をフィレンツェで執筆。男女10人の各10篇，計100の話である。ペスト禍のフィレンツェでの男女10人の暴露話であり，人間の欲望が肯定的に写実的に描かれており，中世の終焉を告げる記念碑的作品といえる。ペトラルカの死の翌年，悲嘆し追うように死去。

ジョット

1266～1337。イタリア＝ルネサンス初期の画家，建築家。

フィレンツェ近郊の生まれ，チマブエの弟子らしい。ビザンツ様式を脱却して**フィレンツェ派の基礎**を築きイタリア＝ルネサンスの道を開いたことが彼の美術史的意義といえる。アッシジの聖フランチェスコ聖堂の壁画『聖フランチェスコの生涯』などが代表作。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ブルネレスキ

1377～1446。

フィレンツェのサンタ＝マリア＝デル＝フィオーレ大聖堂のドゥオモの設計にコンペで優勝。古代ローマとゴシック様式を融合，イタリア＝ルネサンス様式の開祖。透視図法の発明者。コジモ＝デ＝メディチの庇護を受け，メディチ家ゆかりのサン＝ロレンツォ聖堂の建設も担当した。

ドナテルロ

1386頃～1466。

ブルネレスキとともにローマに赴き古典美術を研究した後パトヴァに滞在，のちシエナとフィレンツェに交互に滞在し制作に励む。精緻な人体研究に基づく写実主義が特長。「**ダヴィデ**」が代表作。

マサッチオ

1401～1428。フィレンツェ生まれ。

ジョットから造形技術をブルネレスキから遠近法をドナテルロからは人体の構造を学び，初期ルネサンス様式の画風を確立。サンタマリア＝デル＝カルミネ聖堂内の「**楽園追放**」が代表作。

ボッティチェリ

1444頃～1510。イタリアの画家。

「**春**（プリマヴェーラ）」「**ヴィーナスの誕生**」が代表作。ロレンツォ＝デ＝メディチ周辺に集まる古典学者と親交，新プラトン主義に染まり，ギリシア神話を題材にして当時タブーだった女性の裸体を描きルネサンス絵画に多大の影響。官能美と優雅な曲線美が特徴。フランス王シャルル８世の侵入というイタリア戦争を期にメディチ家が追放され，フィレンツェの権力を握った神秘主義者の修道院長サヴォナローラの禁欲的狂信的な改革に影響され，自らの作品を広場で焼き画家として自滅，宗教家として余生を過ごした。

マキァヴェリ

1469～1527。ルネサンス期のフィレンツェの中流貴族の子。

シャルル８世のフランスの侵入（イタリア戦争，1494年）でフィレンツェから追放されたメディチ家に続くサヴォナローラの神権政治ののち，外交官として活躍。神聖ローマ皇帝マクシミリアン１世，教皇ユリウス２世らと交渉。特に教皇アレクサンドル６世の庶子で背徳の権力者チェーザレ＝ボルジアから感化される。彼を理想としイタリア統一を実現してくれる君主像を『**君主論**』（1513）にしたためた。「獅子の力と狐の狡猾さ」を君主に求め，信義と約束は無用として政治を倫理や道徳と切り離した現実主義が特徴。

ダ＝ヴィンチ

1452～1519。レオナルド＝ダ＝ヴィンチ。
イタリア＝ルネサンス期の画家，彫刻家，建築家。

フィレンツェ近郊のヴィンチ村に生まれ，フィレンツェで修行，ボッティチェリが友人。ミラノで軍事機械の製作・改良に励みつつ，46歳のときミラノのサンタマリア＝デッレ＝グラツィエ教会の食堂に「**最後の晩餐**」を描く。チェーザレ＝ボルジアのために新兵器の開発設計をおこなった。フィレンツェに戻り53歳のとき『**モナ＝リザ**（ジョコンダ）』を描く（二部あるといわれる）。フランス王ルイ12世の招きでミラノに戻り宮廷画家となり，教皇レオ10世に招かれローマに滞在，ついで**フランス王フランソワ１世**にフランスに招かれアンボワーズに館を与えられ余生を過ごした。

ミケランジェロ

1475～1564。イタリア＝ルネサンスの画家・建築家・彫刻家・詩人。

フィレンツェのロレンツォ＝デ＝メディチに保護される。ロレンツォが追放され，宗教指導者サヴォナローラの権力期にはボローニャに逃れ，さらにローマに赴きサン＝ピエトロ大聖堂の『**ピエタ**（嘆き）』を完成。ロレンツォの子レオ10世が教皇になるとフィレンツェのメディチ家の墓廟のあるサン＝ロレンツォ聖堂の建築装飾を依頼されたが未完成。教皇パウルス３世の依頼でローマのシスティナ礼拝堂に壁画「**最後の審判**」を完成した。キリストや天使が裸体だったので物議をかもし弟子が腰布を補筆して事なきをえた。**サン＝ピエトロ大聖堂の修築責任者**となり，初期のブラマンテの設計案に戻って大部分を完成させた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ラファエロ

1483～1520。中部イタリア生まれ。ペルージャの工房で学ぶ。

フィレンツェに出て，ダ＝ヴィンチやミケランジェロの影響を受け，一連の**「聖母子像」**を描く。叔父のブラマンテの推薦で教皇ユリウス２世，レオ10世に用いられ，ブラマンテの死後，サン＝ピエトロ大聖堂の修築主任になった。37歳で早逝，修築主任はミケランジェロに受け継がれた。

ブラマンテ

1444～1514。

ミラノのサンタマリア＝デッレ＝グラツィエ教会の修築，ついで教皇庁に仕え教皇アレクサンドル６世，ユリウス２世の信任を受け，**ローマのサン＝ピエトロ大聖堂の新築**を依頼される。仕事は甥のラファエロ，ミケランジェロへと受け継がれた。

コロンブス

1451～1506。最初のコンキスタドール。

イタリアの地理学者トスカネリの唱えた**「地球球体説」**を信じ，西回りでのインド航路開拓を夢見た。当初スペイン女王イザベルは援助を渋ったが，1492年１月にナスル朝のグラナダを陥落させレコンキスタが完遂して余裕が生まれると，イザベルはコロンブス援助を承諾（実際にコロンブスはグラナダ陥落を目撃している）。1492年８月，旗艦サンタ＝マリア号含め３隻，乗員120名で**パロス港**を出発。10月12日に**サン＝サルバドル島**に到達。帰国後，一躍時の人となるが，その後の第２，第３の航海で植民に失敗し挫折。４度目も実行されたが王室からの援助はボロ舟４隻というありさまだった。結局，金も見つからず，失意のまま没した。ちなみにサン＝サルバドル島を含むカリブ海域の群島を「西インド諸島」と呼ぶのは，コロンブスが，到達した地をインドであると誤解したことに由来する。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ルター

1483～1546。ドイツの宗教改革者。

22歳の時に修道士となり，のちヴィッテンブルク大学の神学教授となる。1517年，教皇レオ10世の贖宥状販売を批判する**「95か条の論題」**を公表したことから宗教改革が始まった。特に著作「キリスト者の自由」では信仰が人々に与える内的自由に関する考察が述べられており，近代的精神形成における先駆的意義は大きい。1521年，神聖ローマ皇帝**カール５世**によって**ヴォルムス帝国議会**に召集されたが，自説を曲げず追放刑に処せられた。その後は**ザクセン選帝侯の庇護**を受けたが，これは神聖ローマ皇帝と諸侯の対立に宗教問題という新たな要素を投じる結果となった。一方で，1524年に**ミュンツァー**が**ドイツ農民戦争**を起こすと，当初は農民側に同情的な立場を取ったものの，運動が過激化すると「世俗の秩序は神が決めたもうたものである」としてこれらの運動を批判した。

エラスムス

1469頃～1536。ロッテルダム出身の，16世紀最大の人文主義者。

ギリシア語新約聖書の刊行により，まずは古典学者として有名になった。1509年，人文主義者としての主著『**愚神礼賛**』を出版し，痴愚神の口を借りて当時の教会・社会を痛烈に批判した。晩年は，当時出版・印刷業の一大中心地だったスイスのバーゼルに留まり，同地で没した。このエラスムスの自由な批判精神に大きく**影響を受けたのがルター**である。当初エラスムスもルターの信仰義認説を支持したが，活動が政治的になるにつれルターを批判する方へ態度を変えた。彼自身，終生ローマ教会への忠誠は変わらず，キリスト者の一致と平和を重視し教会の分裂を望まなかったためであった。ちなみに『愚神礼賛』はイギリス滞在時代に親友のトマス＝モア宅で書かれ，それに刺激を受けたモアが今度は1516年に『ユートピア』を書くことになる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

カルヴァン

1509～1564。フランスの宗教改革者。

27歳（1536）の時バーゼルで主著**『キリスト教綱要』**を出版。同年，偶然旅行中に訪れた**ジュネーヴ**で友人の牧師ファレルに要請され，当地で宗教改革を敢行。一度追放も経験するが，1541年以降20年以上も**神権政治**を行い，政治・宗教・社会生活の改革に努めた。カルヴァン派の教説の特徴は**「予定説」**である。これは，人間が神によって救われるかどうかは善行によって変わるものではなく，予め定まっているのだという考え方である。人間が自らが救われる者かどうかを知る術は一つしかなく，それは職業に精進した結果の蓄財の有無である。これにより，蓄財は「神の栄光」であると解釈されたので，当時勃興しつつあった資本主義社会の新興市民階級の支持を得た。ちなみに，20世紀の社会学者**マックス＝ヴェーバー**は**『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』**のなかで，このようなカルヴァン派の「禁欲・節約」を重視する宗教的態度が世俗化したものが資本主義の精神なのだと喝破した。

シェークスピア

1564～1616。イギリスの詩人・劇作家。

半農半商の家庭に生まれ，**エリザベス１世**治下のロンドンに出て1590年頃から劇作を始める。初期の作品は「ヘンリー６世」など歴史的事件に題材を取った史劇が中心で，次いで「じゃじゃ馬ならし」「お気に召すまま」など人間的深さと社会的広がりを持つ喜劇を発表した。こうした円熟期は**ジェームズ１世**によるステュアート朝**絶対主義**と**イギリス＝ルネサンス**の絶頂期と重なっており，1600年代初頭には**「ハムレット」「リア王」「マクベス」「オセロ」**の四大悲劇に代表されるように人間的葛藤を描くようになっていく。イギリス＝ルネサンスが衰退期に入っていく晩年には，**「テンペスト」**に代表されるロマンス劇（長い別離にあった登場人物たちが魔法や妖精などによって再会する超現実的作劇）が中心の作風となった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

コペルニクス

1473～1543。ポーランドの天文学者。

司教である叔父の下で養育され，1496年から10年間イタリアへ留学。この留学中に天文学を学び，キリスト教的な**天動説**の世界観に疑問を抱くようになったとされる。帰国後は聖職者としての職務をこなすかたわら天文学研究に従事し，地球が太陽の周りを回るとする**地動説**を完成させた。しかしながら，コペルニクスは地動説によって教会に弾圧されることを恐れたため，実際に彼が著作**「天球の回転について」**において地動説を発表したのは死の直前であった。当然同書はカトリック教会からの厳しい非難を受け，1616年にガリレオ＝ガリレイの裁判が始まる直前に**禁書目録**に指定された。

セルバンテス

1547～1616。スペインの作家。

1571年**レパントの海戦**に参加して負傷し，左手の自由を失う。アルジェで捕虜生活を送ったりした後，スペイン無敵艦隊（アルマダ）の食糧調達班員として働くが1588年のアルマダ海戦で無敵艦隊が英国に敗れたため職を失った。その後，徴税吏となるが横領がばれて（発覚して）再び投獄。そして1605年，獄中で構想・執筆したのが不朽の名作『**ドン＝キホーテ**』である。主人公ドン＝キホーテは騎士道文学の読みすぎで自らを伝説の騎士と思い込み，愛馬ロシナンテにまたがり従者のサンチョ＝パンサとともに冒険の旅に出る。この作品は，「個」の視点を導入したことなどから「近代小説の祖」といわれる。また，ドン＝キホーテが風車を巨人の怪物だと思い込んで突撃を仕掛ける場面は，風車をオランダに見立てることで当時のスペイン王フェリペ２世の対オランダ政策を痛烈に風刺したといわれる。

ガリレイ

1564～1642。イタリアの物理学者・天文学者。ピサ生まれ。

ピサ大聖堂の揺れるシャンデリアを見て**「振り子の等時性」**を発見。また斜塔の上から大小２つのボールを落とし，**「落体の法則」**を証明した。その後，パドヴァ大学教授を経て，自作の望遠鏡で木星の衛星を発見するなどしてコペルニクスの地動説が正しいことを証明した。すると異端審問所に呼ばれ，２度に渡る宗教裁判の結果，地動説を放棄させられたが，この時「それでも地球は動く」とつぶやいたといわれている。ちなみに1992年，教皇ヨハネ＝パウロ２世によってガリレイの名誉は約350年ぶりに回復した。主著『天文対話』。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

フランシス＝ベーコン

1561～1626。イギリスの哲学者。

13歳でケンブリッジ大学に進み，15歳でフランス留学。その後，24歳で下院議員となり政界に進出した。1603年，エリザベス１世の死後に王室付き弁護士となり，15年ほどで最高位である大法官まで登り詰めた。政界引退後は隠棲し著述に専念し，1620年，**『新（ノヴム＝）オルガヌム』**を完成させた。実験や観察を重視する**帰納法**によって**経験論**を確立し，伝統的な演繹的論理学に対抗した。また，４つのイドラ（偶像・先入見）が障害となって正しい認識の妨げになると説いた。イギリス経験論哲学の祖とされる。1626年，**「知は力なり」**という言葉を残した。

ホッブズ

1588～1679。イギリスの哲学者・政治学者。

1588年のスペイン無敵艦隊（アルマダ）襲来の噂を聞いた母親がショックで産気づいて早産した。絶対王政擁護論者だったため，ピューリタン革命でフランスに亡命(1640)，皇太子（チャールズ２世）の家庭教師を務める。そのかたわら，主著**『リヴァイアサン』**を執筆し，**1651年**に刊行された。この中で彼は，人間の自然状態を**「万人の万人に対する闘争」**だとし，人間は生存権を守るために契約を結んで絶対主権をそなえた国家をつくったのだとした。こうして絶対王政を理論的に擁護した。「契約」概念の導入は，**「社会契約説」**の原点となった。

ルソー

1712～1778。フランスの哲学者・啓蒙思想家。

10歳にして孤児となるが，とある男爵夫人の庇護を受け，読書三昧の青年期を送る。30歳でパリに出て百科全書派のディドロらと交友。33歳で下宿の女中と愛人関係になり10年間で５人の子供を授かるが５人とも捨てた。1750年の『学問芸術論』で注目され，1755年**『人間不平等起源論』**では文明が発達すればするほど不平等も進行するとし，当時の絶対王政下の社会を批判した。1762年には**『社会契約論』**を発表して人民主権論を主張し，**『エミール』**では理想的教育論を展開した。しかしこれらの著作の社会批判が当時の政府や教会の反感を買ったので，国外追放となる。この放浪時代に得た構想をもとにした『孤独な散歩者の夢想』を絶筆として1778年パリで没した。彼の思想は，1789年に始まるフランス革命に多大な影響を与え，革命中の1794年には，当時のジャコバン政府によって遺骸がパンテオンに埋葬された。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

デカルト

1596～1650。フランスの哲学者。

ポワティエ大学で法学や医学を学んだ後，軍隊に入り，ドイツ三十年戦争（1618～48）に旧教側として参加した。そのさなかの19年11月，南ドイツのとある農村で宿泊中「驚くべき学問の基礎を発見」した。それが1637年に発表された主著**『方法序説』**におけるメインアイデア，**「われ思う，ゆえにわれあり」**であった。これは，すべての存在を疑ったのち，疑っている自分自身は絶対に存在することを確信した言葉で，ひとつの命題から合理的に推論を導き出す**演繹法**の思考の基礎となった。これは，世界に関する確実な知識・認識を欲していた若きデカルトが辿り着いた偉大なる結論であり，彼はこれによってその後に展開する大陸合理論の祖となった。彼は数学者でもあり，x－y平面（デカルト座標系）を考案したことでも有名。

ニュートン

1642～1727。イギリスの物理学者・数学者．天文学者。

万有引力の法則（重力理論）**・分光現象に関する理論・微積分法**の「三大発見」で知られる。特に主著**『プリンキピア』**では理論物理学の基礎を完成させ，近代科学の土台を築いた人物であるといえる。「りんごが落ちるのを見て万有引力の法則を思いついた」というエピソードは非常に有名だが，実際には**ケプラーの法則**にヒントを得て着想したとするのが一般的である。数学の分野でも**二項定理**の発見など多くの功績を残したが，一方で微積分法の発見の順番を巡ってドイツのゴットフリート＝ライプニッツと激しい法廷闘争を繰り広げている。また，下院議員に選出されているが政治面ではあまり活躍せず，議会での唯一の発言は「議長。窓を閉めてください」であったと伝えられる。晩年は錬金術に没頭。

グロティウス

1583～1645。オランダの法学者。

「近代自然法の父」「国際法の祖」と呼ばれる。14歳でライデン大学を卒業し，翌年には外交使節として**アンリ４世**時代のフランスへ随行する。帰国後は弁護士となり，駐英大使などを歴任した。1619年，宗教問題に絡んで逮捕・投獄され，２年後にスウェーデンへ亡命。駐仏大使に任ぜられるが，職務よりも法学研究に没頭したため解任され，帰国途上に病没。主著**『戦争と平和の法』**では，**ドイツ三十年戦争**の惨禍を目の当たりにした経験から理性と自然法による国家間の秩序を説き，国際法の理論体系を形成した。彼の思想は三十年戦争の講和条約である**ウェストファリア条約**に盛り込まれた。その他の著作としては**『海洋自由論』**など。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ロック

1632～1704。イギリスの哲学者・政治学者。

王政復古後に政界に関わるようになるも，1683年にオランダへ亡命。名誉革命後に帰国し,『人間悟性論』『**統治二論（市民政府二論）**』を発表。前者では**スコラ哲学**を離れた**経験論**を展開し，近代的認識論を創始した。また，**王権神授説**や家父長制を否定し政教分離を説くなど，個人的自由を基本的人権として擁護する立場をとり，特に『統治二論』においては**ホッブズ**の提唱した**社会契約**の概念を発展させて人民の**抵抗権**を認め，名誉革命に理論的正当性を与えた。ロックの思想はアメリカの**「独立宣言」**にも大きな影響を与え，さらに**ラファイエット**らの啓蒙貴族を通じて**フランス革命**にも盛り込まれた。その思想は**モンテスキュー**らによって発展され，近代的理性による支配を確立する方法として**立憲制**や**三権分立**といった制度へと結実された。

ヒューム

1711～1776。イギリスの哲学者・歴史家。**功利主義**者。

11歳でエディンバラ大学に入学するが，哲学研究に専念するため退学。1750年代頃から名を成し，パリ滞在中に**ルソー**と知遇を得る。それ以前の哲学が自明のものとしていた「知」という概念に対して疑問を投げかけ，実体としての精神を否定して**ロック**らの**経験論**の限界を示した。すなわち，世界の物事の原因と結果が必然的に結びつくという考え方（**因果律**）を否定し，観察者が心の中で経験に基づいて原因と結果を結び付けているにすぎないとした。ヒュームの**懐疑論**はドイツの哲学者**イマヌエル＝カント**の批判哲学の形成に多大な影響を与えたが，一方でカント自らがヒュームは「哲学が独断論の浅瀬に乗り上げることから救ったが，懐疑論という別の浅瀬に座礁させた」と述べているように，現在においても完全には克服されていない哲学的課題を残すこととなった。主著は『人性論』。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

パスカル

1623〜1662。フランスの数学者・哲学者・物理学者。

流体の圧力に関する**「パスカルの法則」**のほか整数論・確率論などの分野に功績を残す。少年時より父の数学サロンに出入りする研究者たちの影響を受け，機械式計算機の製作も試みている。23歳頃，**ジャンセニスム**（**予定説**をより厳格に解釈して，人間の自由意志を否定し神の恩寵を重視する宗派。イエズス会やローマ教皇と対立ししばし異端として禁止されている。）に傾倒し，以後神学・哲学への関心を深めていく。その際にしたためられた膨大なメモが死後発見され，**『随想録（パンセ）』**としてまとめられた。この中でパスカルは「人間は自然の中のか弱い一本の葦にすぎない。だがこの葦は**考える葦**である。」と述べており，人間の有限性を認める一方で，思索によって宇宙をも越えるという無限の可能性を示唆している。同時代人の**デカルト**に対しては，その理性的秩序の虚しさを批判し神の大いなる愛の秩序を示した。

ケネー

1694〜1774。フランスの経済学者。

もとは外科医だった。ヴェルサイユ宮殿に入り，ルイ15世の侍医にもなったが，55歳で経済学を志す決心をする。ディドロの編集する『百科全書』への寄稿を皮切りに経済学者としてキャリアをスタートさせ，**1758年**には主著**『経済表』**を発表した。彼はフランス中を旅行して農業荒廃の様子を見て回り，社会的富の源泉は農業にあると確信し，当時の経済統制を重視する絶対王政下の重商主義を批判した。農民を自由放任に活動させるべきとして**レッセ＝フェール（なすにまかせよ）**を説いた。こうした学説によって彼は**重農主義**の祖といわれる。

カント

1724〜1804。ドイツの哲学者。

ケーニヒスベルク（現カリーニングラード）出身。1770年，同地の大学教授となり終生この地でこの地位にあった。大陸合理論とイギリス経験論を総合する**ドイツ観念論哲学**の祖となる。カントの哲学は**「批判哲学」**と呼ばれ，人間理性の認識能力の限界を究明する立場を取った。身長150cmほど，頭が大きく，虚弱な体質だったが，時計のように正確な規則正しい生活を送り，80歳まで長命。生涯独身。人々はカントが散歩する姿を見て時計を合わせたといわれる。主著は**『純粋理性批判』**（1781），『実践理性批判』（1788），『判断力批判』（1790）の「三批判書」である。また，晩年に発表した『永遠平和のために』（1795）では後の国際連盟構想につながる考えを述べている。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ヘーゲル

1770～1831。ドイツの哲学者。

ドイツ観念論哲学の完成者であり，近代哲学と現代哲学の分水嶺として位置づけられる。ヘーゲルの思想は，世界を絶対精神の**弁証法**的自己展開の場とみなす徹底的な客観的観念論である。そして自己と対立するものとの矛盾を内包しつつ，この自己矛盾を**止揚（アウフヘーベン）**することによって，より高度な段階へと至ると説いた。さらにこの考え方を市民社会にあてはめ，欲望実現のための経済体系は**人倫**組織であるところの国家によって止揚されることにより近代国家において精神の完成形が実現すると述べて，プロイセンの国家体制に理論的裏付けを与えた。このため，ヘーゲル派右派はプロイセンの御用哲学と化した。一方でヘーゲル派左派はマルクスやフォイエルバッハに受け継がれ，唯物弁証法へと発展した。主著は**『法の哲学』**『精神現象学』など。

アダム＝スミス

1723～1790。イギリスの経済学者・社会学者。

フランス滞在中に**テュルゴー**，**ネッケル**らの**重農主義**者と親交を結び，彼らやヒュームの経済思想を土台として帰国後に主著**『諸国民の富（国富論）』**を執筆した。同書では**重商主義**政策を批判して，各人や各国が絶対的優位性をもつ分野を**分業**することによって富を蓄積すべきであるとし，個々人の利益追求が社会公共の利益をも増進させるとする**自由放任主義**を主張した。同書の**「神の見えざる手」**という表現は，自由放任主義による公益の自動調整機能を端的に示す言葉として有名。また，富の源泉として労働を重視し，労働投入量が価格を左右するとする**労働価値説**を強化した。こうした考え方は，次代の**リカード**によって整理され，**古典派経済学**として完成された。

ニーチェ

1844～1900。ドイツの哲学者。**実存主義**の先駆。

弱冠24歳でバーベル大学教授となり，音楽家**リヒャルト＝ヴァーグナー**と親交を結んだが，のち断交。1879年以降は病気のため大学を辞し，1888年に発狂するまで在野の哲学者として著述に専念した。**「神は死んだ」**という言葉に代表されるように，神・理性・自我などの西洋思想を支えていた諸概念を徹底的に批判し，来世的な救済観を否定して無限に無意味に**永劫回帰**する生を生き抜く**超人**思想を示した。すなわち，人間は理性的動物ではなく負の怨念**（ルサンチマン）**に突き動かされて生きていく生物と規定し，そうした苦悩や矮小化を克服した超人という概念を打ち立てることで，キリスト教に代わる新しい人間の拠り所を描き出そうとした。主著は『**ツァラトゥストラはかく語りき**』『**この人を見よ**』執筆中に発狂した未完の大著『**力への意志**』など。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

プーシキン

1799～1837。ロシアの詩人・作家。

ロシア地主貴族の家に生まれ，外務省に勤務。文学を高い使命を持つ国民的事業と位置づけ，ロシア文学史上初めて庶民の口語を文語に取り入れ，近代文章語を確立した。当初**ロマン主義**に傾倒し，**デカブリスト**たちの主張を反映した詩作を発表したため，追放・免職。のちロマン主義を脱し，**リアリズム**を確立するが，しだいに詩文から歴史小説へと関心を移す。インテリゲンツィア（知識人）が知識と財力を持ちながら社会に対して一切為すところのない「余計者」として鬱屈せざるを得ない苦悩を描く一方で，生産者としての農民たちの姿と対比させ，ロシア**農奴制**の持つ矛盾を描いた。1837年にフランス人士官ジョルジュ＝ダンテスと決闘を行い死亡。主な作品は『オネーギン』『大尉の娘』。

ドストエフスキー

1821～1881。ロシアの作家。**実存主義**の先駆。

当初は**空想的社会主義**組織に属し，「貧しき人々」などの下層民への同情的作品を展開した。1849年の社会主義思想弾圧に伴い４年間のシベリア服役と６年間の兵役を経験。以降は，社会主義思想をベースとしたインテリゲンツィアによる暴力革命には否定的路線を示し，キリスト教に基づく人道主義を展開した。例えば,『**白痴**』の主人公はキリストを模したものであり，彼に体現されるキリスト的愛を賛美しながらも決して受け入れることのないロシア社会の腐敗を痛烈に揶揄している。また『**罪と罰**』では殺人を犯した主人公が自首するまでの罪の意識と葛藤を描写し，人間性回復への強烈な願望を訴えるヒューマニズムを描いた。このような象徴的描写法と心理主義による作品性は類がなく，世界文学史上においても特殊な地位を占めている。無政府主義，無神論，ニヒリズム，信仰，社会主義革命をテーマに,『悪霊』，貧困や児童虐待なども含んだ『カラマーゾフの兄弟』も著した。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

トルストイ

1828～1910。ロシアの作家。

1854～56年にかけて**クリミア戦争**に従軍し，この体験がその後の作品における平和主義・博愛主義の形成に大きな影響を与えたとされる。トルストイの作風は，精緻な社会描写によって特徴づけられ，例えば『**戦争と平和**』ではロシア貴族社会や戦場体験が実感をもって描かれている。晩年は宗教的色彩を強め，『**復活**』では**ロシア正教**の教義を恣意的に解釈したとして破門されるものの，悪に対する無抵抗・善と愛による世界の救済という新たな宗教観（**トルストイ主義**）を結実させた。この思想はロシアの**無政府主義（アナーキズム）**運動や**ガンジー**の**非暴力主義**，さらには日本の白樺派などにも影響を与えたとされる。1910年夫人と険悪となり，家出中に肺炎をこじらせて死亡。

ドラクロワ

1798～1863。フランスの画家。

パリの外交官シャルル＝ドラクロワの子として生まれるが，実父は**正統主義**を唱えた**タレーラン**であるともいわれている。新古典派画家のゲランのアトリエに入るが，「ダンテの小舟」「**キオス島の虐殺**」などで強烈な色彩や現実事件の題材化を行う**ロマン派**を起こし，一大センセーションを巻き起こした。特に「キオス島の虐殺」は「絵画の虐殺」とまで酷評されたが，ロマン派運動隆盛のきっかけとなった。**1830年に七月革命**が起こると，「**民衆を率いる自由の女神**（原題：自由）」を制作。作中では，女性で自由を，乳房で祖国を表現するなど，さまざまな理念が比喩として盛り込まれており，七月革命というテーマもあいまってロマン主義を代表する傑作と位置づけられている。

ダーウィン

1809～1882。イギリスの生物学者。進化論の確立者。

ケンブリッジ大学卒業直後，22歳のときに海軍の測量船ビーグル号に乗り込んで南半球を周航し，詳しい調査のもと生物進化を確信する。帰国後，研究に没頭し，マルサスの『人口論』にヒントを得ながら執筆を進め，**1859年**に主著『**種の起源**』を発表する。刊行後またたく間に大ベストセラーとなり，一大論争を引き起こした。特に，天地創造説を護持する宗教界からは激しい反発があった。彼の進化論は「**適者生存**」・「**自然淘汰**」のアイデアを中心とするが，これは一面では当時のイギリスの産業資本主義の自由競争による発展を結果的に正当化するという側面も有していたといわれる。進化論の影響は多方面に渡るが，特にマルクスが唯物史観の着想を得るヒントとなったことは有名。ちなみにカトリック教会が進化論を認めたのは1996年になってからであった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ゲーテ

1749～1832。ドイツの文豪。

大学卒業後，25歳の時，ナポレオンも７度読んだという『**若きウェルテルの悩み**』を発表し「**疾風怒濤」運動**の旗手となった。ゲーテの名は一躍ヨーロッパ中に轟くことになる。その後，ヴァイマル公国に招かれ30歳で大臣となるなど政治家として活躍。同地で様々な恋を経験した後，1789年にフランス革命が起こると反革命軍に従軍。1792年の**ヴァルミーの戦い**でフランス軍の勝利を目の当たりにし，「この日，この場所から**世界史の新しい時代が始まる**」とその日の日記に残したことは有名。94年からは盟友シラーとの交友が始まり古典主義へと傾倒。シラーの死後，ゲーテの晩年期が訪れ世界文学という概念を提唱。1808年に大作『**ファウスト**』を発表。

シラー

1759～1805。ドイツの詩人・劇作家。

早くも18歳で名作『群盗』を書き，マンハイムでの初演の時には観客に熱烈に賞賛された。権力に対して敢然と立ち向かう正義感あふれる若者を力強く描いたこの作品は「**疾風怒濤」運動**における代表的作品のひとつに数えられる。劇作家として次々と作品を発表し名声を高めたが，28歳のときヴァイマルに移ってからは歴史研究に没頭し，30歳でイエナ大学員外教授となる。94年からはゲーテと親交を結び，古典主義文学の活動を展開。『ヴァレンシュタイン』や『オルレアンの少女』などの史劇を残した。ちなみに，ベートーベンの交響曲第九番の原詩はシラーの作品である。

トゥルゲーネフ

1818～1883。ロシアの作家。

25歳のときに，フランス人歌手ヴィアルドー夫人との叶わぬ恋に落ち，彼はそのために生涯独身で過ごすことになる。50年に母が死亡すると財産を相続し，農奴の解放を実行した。52年には『猟人日記』で貧しい農奴の生活を描いて農奴制を批判した。この作品は当時の皇太子アレクサンドル（後のアレクサンドル２世）に農奴解放を決意させたといわれる。その後，パリへ赴き，当時のパリの文壇を賑わしていたゾラ，フロベール，モーパッサンらと交友を結んだ。農奴解放令（1861）の翌年，1862年に出版された『**父と子**』では，農奴解放後のロシア社会と，無気力なインテリゲンツィアを描いた。作中に「**ニヒリズム（虚無主義）**」という言葉が登場し，この言葉が大いに普及するきっかけとなった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ヘミングウェー

1899～1961。アメリカの作家。

第一次大戦が勃発（1914）すると志願兵として従軍するが，イタリア戦線で砲弾をあび重傷を負って帰国した。この時の経験を基に書かれたのが『武器よさらば』（1929）である。この作品によって「失われた世代」の代表的作家として一気に世界的作家となった。1936年に**スペイン内戦**（～39）が勃発すると，反ファシズムを掲げて**マルロー**や**オーウェル**らとともに国際義勇軍として従軍し，**アサーニャ人民戦線内閣**の支援に尽力した。この時の経験を基に『誰がために鐘は鳴る』（1940）を書き，ベストセラーとなった。第二次大戦後，『老人と海』（1952）を発表。ピューリッツァー賞，ノーベル文学賞を受賞した。晩年，精神を病んで，1961年７月，自宅でライフル銃を口に当て，自殺した。

ゴーガン（ゴーギャン）

1848～1903。フランスの**後期印象派**の画家。

株式仲買人として成功を収め，将来を有望される勤務ぶりだった。良き妻と５人の子供にも恵まれ，家庭においては良き夫で，日曜画家として時たま絵筆を取ったり，印象派の絵画を収集するだけだったのが，35歳にして突如としてそれまでの仕事と生活を捨て画家になることを決意。しかし彼の絵は全く売れず家族を養えなくなり，妻と子供を捨て，それでも赤貧のなか絵を描き続けた。一時ゴッホと共同生活をしたこともあったがゴッホによる「耳切り事件」で決別し失敗。43歳の時，南太平洋の仏領のタヒチに渡る。次々と作品を仕上げていったが，生前にはついに彼の絵は売れることなく，1903年，孤独と失意の中，誰一人看取る者なく55歳で没した。

ゴッホ

1853～1890。オランダの**後期印象派**の画家。

幼少の頃から気性が荒く，中学を中退後，16歳から画商，書店店員，仏語教師など遍歴するがどれも長続きしなかった。20歳の時，下宿先の娘ジェニーに恋するが振られ聖書研究に没頭し，炭鉱でのキリスト教伝道師になるが，あまりに熱狂的すぎて人々に拒否されこれも失敗。24歳で大学の神学部で学ぶために受験勉強を開始するが，これも途中で放棄。27歳で画家になることを志し，独学で猛烈に素描の練習を始める。30歳からは油彩に挑戦，ルーベンスや日本の浮世絵に強い影響を受けつつ独自の手法を模索し始め，35歳の時，一時南仏アルルでゴーギャンと共同生活をするが「耳切り事件」により２ヶ月で決裂。この時期，代表作『糸杉』や『ひまわり』など200点を描いた。その後，精神に異常をきたして入院し，1890年写生中，麦畑のまんなかでピストル自殺。不遇の人生で，生前に売れた絵は『赤いブドウ畑』一作だけだった。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ケインズ

1883～1946。イギリスの経済学者。

ケンブリッジ大学で経済学を教える。**パリ講和会議**（1919）で大蔵省首席代表となったが，ドイツへ多額の賠償を課す案に反対したため辞任する。42歳でロシア人バレリーナのリディアと略奪結婚。1936年には主著『**雇用・利子および貨幣の一般理論**』を発表し学会に衝撃をもたらした。国家による有効需要の増大で完全雇用を実現できるという内容で，特に世界恐慌後（1929～）の米ルーズヴェルト政権の**ニューディール政策**の指導理論になった。第二次大戦が始まると（1939～）大蔵省に招かれた。1944年の**ブレトン＝ウッズ会議**に参加し，**国際通貨基金IMF**や**国際復興開発銀行IBRD**の設立に尽力し，その初代総裁にも就任した。ケインズ理論は「修正資本主義」と呼ばれ，それまでの自由放任一辺倒だった資本主義理論に「革命」をもたらした。またケインズ自身も投資の成功により財を成した人で，彼の理論はその実践と大いに結びついていた。

ブルクハルト

1818～1897。スイスの歴史家。

ベルリンやボンでランケやドロイゼンに師事。イタリア旅行を経験した後，40歳でバーゼル大学教授となり，終生この地で過ごした。1869～79年に同大学で古典文献学を担当した同僚の哲学者ニーチェとは親友だった。1860年に主著『イタリア＝ルネサンスの文化』を発表し，**「ルネサンス」**という時代概念を定着させることに決定的に貢献した。また1870年に普仏戦争が勃発すると，ちょうど両国の国境と接する地にあったバーゼルで『世界史的諸考察』の講義を行い，増長する２つの巨大なナショナリズムの激突に対して暗に警鐘を鳴らしている。この講義にはニーチェも感動を持って聴講したという。彼は生前，いずれ世界には低俗さと凡庸さが支配する「大衆の時代」が来るであろうと予見し，自分はその滅びる側でいたいと語っていた。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

フロイト

1856〜1939。オーストリアの精神分析学者。ユダヤ系家庭出身。

ウィーン大学卒業後，同大学教授となった(1902〜38)。「自由連想法」を用いるヒステリー治療法を考案するなど，独自の精神分析体系を樹立した。フロイトによれば，人間は理性を持ち自由に考え行動しているように思い込んでいるが，実は人間は「無意識」の支配のままに動いているにすぎないのだとした。こうしてフロイトは人間の無意識の領域が果たす役割を強調したが，これはマルクスやニーチェの思想と並んで，トーマス＝マンなどほとんど全ての20世紀の作家や，美術でのシュールレアリズムなど，20世紀文化のあらゆる分野に巨大な影響をもたらした。フロイト自身はユダヤ系であったため，1930年代に**ナチスによるユダヤ人迫害**が苛烈化するとイギリスに亡命し，当地で没した。

ピカソ

1881〜1973。スペインの画家。

美術教師の息子に生まれ，幼児から画の天分を発揮した。美術学校を出た後，早くも21歳でパリで個展を開いた。26歳のとき名作『アヴィニョンの女たち』を描き，立体派(キュビズム)を創始して現代美術への扉を開いた。ピカソは生涯に６人の女性を愛したが，これ(彼女達)がそれぞれの時代のピカソの芸術的傾向に関わっているといわれている。1936年に母国スペインで内戦が勃発してナチス・ドイツがスペイン北方バスク地方の小都市ゲルニカを爆撃すると，ピカソは戦争への激怒と憤懣を込め,**「ゲルニカ」**を制作した。この作品はパリ万国博覧会に出品され激賞を集めた。その後，1944年には**フランス共産党**に入党。一部の者からは「世界一裕福な共産党員」と揶揄されたりもしたが，戦後も積極的に反戦をテーマにした作品などを作り続け，92歳で没した。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ランケ

1795～1886。ドイツの歴史家。歴史学の祖。

牧師の子として生まれ，1824年，ベルリン大学の教授となる。啓蒙主義から派生した教訓的・実用的歴史学を批判し，徹底的な**史料批判**により客観的な歴史的事実のみによる歴史記述法を確立した。このような考え方を**実証主義**と呼び，処女作「ラテンおよびゲルマン諸民族の歴史」を皮切りに『イギリス史』『フランス史』などの諸国民史を発表し，晩年には**『世界史』**を執筆して「各国史の寄せ集めではない世界史」についての構想を示した。実証主義は瑣末事にこだわるあまりしばし歴史家が大局を見失うという欠点があり，ランケ自身の著述にも復古主義的でアメリカ，イギリスなどの新興勢力に対して不公平な側面が見受けられる。しかしながら，史料を方法的に分析し経験的に解釈・判断するという手法を根付かせ，科学として歴史学を確立した功績は大きい。

トインビー（アーノルド＝ジョセフ＝トインビー）

1889～1975。イギリスの歴史家。

「産業革命」という言葉を初めて使った経済学者**アーノルド＝トインビー**は叔父にあたる。オックスフォード大学でギリシア・ローマの古典教育を受け，卒業後は１年間のギリシア滞在を経てオックスフォード大学やロンドン大学の教官を歴任する。マルクス史学を批判して，「文明」を基盤とした独自の歴史観を打ち出した。すなわち，文明は発生・成長・衰退・消滅のサイクルを周期的に繰り返し，親文明から子文明・孫文明へと継承・発展するものであるとする史観である。これによって，歴史発展の基礎を国家や社会におく従来の歴史観を克服しうる可能性のある**比較文明論**が確立された。主著は『歴史の研究』『試練に立つ文明』など。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

アインシュタイン

1879～1955。ドイツ生まれのユダヤ人理論物理学者。

チューリヒ工科大学を卒業後，スイス特許局局員時代に**特殊相対性理論**を発表。のちこれを発展させて**一般相対性理論**を提唱。**ブラウン運動**や**光電効果**の発見などにより，理論物理学の世界に不動の地位を築く。1921年にはノーベル物理学賞を受賞。第一次大戦中は平和主義のもと兵役拒否を提唱したが，第二次大戦では積極的に**反ナチズム運動**や**シオニズム**支援を行っている。1932年にはナチスのユダヤ人迫害が激化したためアメリカに亡命し，**フランクリン＝ローズベルト大統領**に原子炉の開発を提言している。のち，合衆国政府が原子炉開発から**原子爆弾**開発へと路線転向（**マンハッタン計画**）したため先の提言を後悔し，戦後の**1955年**にはイギリスの思想家**ラッセル**と連名で**ラッセル＝アインシュタイン宣言**を発表して**パグウォッシュ会議**を創設。核兵器廃絶を呼びかけた。

ロバート＝オーウェン

1771～1858。イギリスの空想的社会主義者。

小手工業者の家に生まれ，10代で商店の奉公人となり，そこから身をおこしてついにニューラナークの紡績工場の経営者となる。経営に手腕を発揮し「綿業王」として人々の尊敬を集め，立志伝中の人物とみなされる一方で，労働者の環境改善や子弟の教育に積極的に取り組み，**ニューラナーク工場に幼稚園を併設**した。1825～29年に私財を投じてアメリカに共産社会「**ニューハーモニー**」を建設したが失敗して財産を失い帰国。自らも労働者階級の一員となって，著作で私有財産制や既成宗教の批判を繰り返し，**1833年**の**一般工場法**の制定に努力した。

サン＝シモン

1760～1825。

自由主義貴族としてアメリカ独立革命に参加し，フランス革命では財産を没収されたものの革命を支持。迫り来る産業革命を前に，産業革命後の社会を効率的に再組織する方法を研究。特権階級を排除し，**産業家を中心に運用される社会**を構想した。また相続税によって財産を再分配し，機会の平等を図ろうとするその思想は，空想的社会主義の先駆けとされ，弟子たちによってサン＝シモン主義として宣伝された。第二帝政の**ナポレオン３世にも影響**を与え，ナポレオン３世のボナパルティズムは資本家を優遇する一方で，労働者の生活も保障した。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

フーリエ

1772～1837。フランスの空想的社会主義者。

商業に支配される文明と，労働が義務的で無味乾燥となっている現状を批判し，人間性の全体的回復を唱え，ファランジュ（ファランステール）と呼ぶ**協同組合的共同体**を基礎とする理想的な未来社会を構想。生涯不遇で貧窮のうちに没したが，その思想は弟子たちを通じてフランスの協同組合運動に大きな影響を与えた。マルクスによってオーウェン，サン＝シモンと共に三大空想的社会主義者とされた。「男女共同参画社会」は彼の思想の系譜である。

ブランキ

1805～1881。フランスの革命家。

総裁政府に対して政権転覆の陰謀事件をおこしたことで知られるバブーフを尊敬し，**少数精鋭の武装蜂起によるプロレタリア独裁政権樹立を目指した**。七月革命･二月革命･第二帝政期を通し，蜂起・投獄・亡命を繰り返し，生涯の36年を獄中に過ごした。

ルイ＝ブラン

1811～1882。

フランスの社会主義者で**二月革命**で労働者を指導し，臨時政府の一員となる。**労働代表（リュクサンブール）委員会を組織**し，労働者の保護立法に努める一方で持論であった**国立作業場**を設置。しかし国立作業場は登録人員がパリ人口の１割にあたる10万人を突破し，国家予算を空費するブラックホールと化して国民の怒りを買い，４月総選挙で社会主義者が惨敗する要因となった。６月に国立作業場閉鎖に反対した労働者が暴動をおこすと（**六月暴動**），罪に問われてイギリスに亡命。70年に帰国したが，パリ＝コミューンには政府側にたって反対した。

プルードン

1809～1865。

フランスの社会主義者で「**財産とは何か。盗んだものである**」と宣言して有名に。国家権力を自由を抑圧するものとして否定し，自由な個人の相互扶助の社会を理想として無政府主義の父といわれる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

バクーニン

1814～1876。

ロシア貴族の子として生まれ，パリに出奔してプルードンやマルクスと親交を深め，プルードンの影響下に無政府主義思想を形成。1849年にドイツで暴動を指揮してシベリア流刑となるが，1861年に脱走。68年にロンドンに渡り，**第１インターナショナル**に参加した。しかし，国家を逆用して国家権力をプロレタリアートで独裁することで社会主義を実現しようとする**マルクス**と，国家を否定することで人間の自由が達成されるとするバクーニンとの**対立**は明らかで，**パリ＝コミューンの評価を巡って**72年に**除名**された。暴力的手段によってでも国家権力を絶滅させるべきとし，その手段として農民と下層市民の武装蜂起を期待したその思想はロシアのナロードニキ運動の基盤となり，フランスの**サンディカリズム**やイタリア・スペインの革命運動にも影響を与えた。

カール＝マルクス

1818～1883。**ドイツ**生まれのユダヤ人思想家。

ドイツのフォイエルバッハの**唯物論哲学**と，**イギリスの古典派経済学**と，**フランスの社会主義思想**を批判的に統合し，マルクス主義として知られる思想体系を確立。ウィーン体制崩壊の年の**1848年**にエンゲルスと共に著した『**共産党宣言**』は，始まりの「**ヨーロッパを妖怪がさまよっている。共産主義という名の妖怪が**」と，結びの「**万国の労働者よ団結せよ**」で有名である。パリにおいてプルードンなどのフランスの社会主義者と交流したのち，ウィーン体制崩壊時の三月革命の発生でドイツに帰国したが，革命の敗北と共に1849年ドイツを追放されてロンドンに亡命。以後貧苦の中で大英博物館に通って研究を重ね，『経済学批判』において経済活動を社会の下部構造（基盤）と規定。**1867年**には主著『**資本論**』**の第一巻**を出版。その一方で**第１インターナショナル**（国際労働者協会）の設立にも関わり，終生国際共産主義運動に尽力した。

エンゲルス

1820～1895。**ドイツ**の革命家・思想家。

ドイツの紡績工場主の子に生まれた。マルクスと科学的社会主義を創始し，『ドイツ－イデオロギー』『**共産党宣言**』を共同執筆。1849年にイギリス亡命後は，マンチェスターで家業であった紡績業を経営し，**マルクスの生活を支え**ている。また，マルクスの「資本論」第二，三巻を整理・刊行。自身の著作としては『家族・私有財産・国家の起源』『**空想から科学へ**』。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

レーニン

1870～1924。**ロシア**の革命家・政治家。ロシア革命の指導者。

貧しい小貴族の家に生まれた。兄はナロードニキ運動に参加し，皇帝アレクサンドル２世暗殺未遂事件の主犯として絞首刑となっている。その兄の影響で革命運動に参加し，マルクス主義を知り，ロシア最初のマルクス主義政党，**社会民主労働党**に参加。社会民主労働党が第２回大会で分裂すると，職業的革命家による前衛党組織を唱え**ボリシェビキ**を指導。労農同盟，戦争の内乱への転化，プロレタリア革命を主張した。三月革命時にはジュネーブに亡命していたが，ドイツ軍の協力を得て封印列車で帰国。**四月テーゼ**を発表して「戦争の即時停止」と「全ての権力をソヴィエトへ」と唱え，十一月革命を指揮しソヴィエト政府を樹立，首班となる。内戦と対ソ干渉戦争の時期には「全てを戦場へ」のスローガンのもと戦時共産主義の経済政策をとったが，それによってロシア経済が崩壊すると，限度内での資本主義復活を認めた**ネップ**を推進した。しかし，1924年に革命事業建設の途上に53歳で病死し，のちにスターリンの暗黒時代を招来することになった。第二次大戦時のイギリス首相として有名なチャーチルは言っている。「ロシア国民にとって最大の不幸は，レーニンがこの世に生まれてきたことだった。それに次ぐ不幸は，レーニンが途中で死んでしまったことである」。著作は『**帝国主義論**』。

ローザ＝ルクセンブルク

1870～1919。ポーランド出身の**ドイツの女性革命家**・経済学者。

社会民主党左派の理論的指導者として修正主義派のベルンシュタインや中央派（主流派・日和見派）のカウツキーと論争。第一次大戦に反対し**カール＝リープクネヒト**らと**スパルタクス団**を結成し反戦活動に従事して投獄された。1918年のドイツ十一月革命で出獄し，**ドイツ共産党**を創立。1919年１月に20万の労働者を組織してスパルタクス団蜂起に参加したが，社会民主党臨時政府に鎮圧され，逮捕された後，連行中に右派将校に虐殺された。

ベルンシュタイン

1850～1932。**ドイツ**の政治家。社会民主党の理論家。

社会主義者鎮圧法に反対してロンドン亡命中にエンゲルスとも親交を持ったが，しだいにマルクス主義の革命理論に疑いを持ち，**修正主義理論**を展開。カウツキーやローザ＝ルクセンブルクと論争した。第一次大戦に際しては，反戦の立場から独立社会民主党の結成に加わったが，一次大戦後は社会民主党に復帰した。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ジャン＝ジョレス

1859～1914。**フランス**の社会主義政治家。

マルクス主義の影響を受けながらも，議会による改良主義を主張し，マルクス主義派とは対立関係にあったが，第２インターナショナルの決議に基づいてフランスの社会主義者の団結に努力し，マルクス主義派とともに**1905年**に**フランス社会党（統一社会党）**を結成した。反戦平和を訴えて活躍したが，一次大戦勃発によるナショナリズム高揚の中で，熱狂的愛国者に暗殺された。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

確認テスト　第１講

1　以下のうち，聖書の原典が記された言語に該当しない言語を１つ選べ。

a　アラム語　　b　ヘブライ語
c　ギリシア語　　d　ラテン語

2　以下のうち，ユダヤ教と明らかに無関係の単語を１つ選べ。

a　タルムード　　b　ディアスポラ
c　カタコンベ　　d　シオニズム

3　以下のうち，キリスト教と明らかに無関係の単語を１つ選べ。

a　聖戦　　b　アガペ
c　復活　　d　使徒

4　キリスト教の三位一体説と明らかに無関係の単語を１つ選べ。

a　エウセビオス　　b　コンスタンティヌス
c　ディオクレティアヌス　　d　アタナシウス

5　エジプトのキリスト教はコプト派（エギ・コプト→エジプト）である。同派と関係があるキリスト単性論が異端となった公会議を１つ選べ。

a　トレント公会議　　b　カルケドン公会議
c　エフェソス公会議　　d　コンスタンツ公会議

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈***Note***〉

確認テスト　第１講　解答

1　d　　2　c　　3　a　　4　c　　5　b

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

確認テスト　第２講

1　「12 世紀ルネサンス」と関係の深いイタリアの都市を１つ選べ。

a　フィレンツェ　　b　シラクサ
c　ナポリ　　d　パレルモ

2　普遍論争において明らかに実在論の立場にあったといえる人物を１人選べ。

a　ウィリアム ＝ オッカム　　b　アンセルムス
c　アベラール　　d　ドゥンス ＝ スコトゥス

3　以下のうち，フィレンツェでなく，ヴェネツィアで活躍した画家を１人選べ。

a　マザッチョ　　b　ボッティチェリ
c　ティツィアーノ　　d　ラファエロ

4　以下のうち，エラスムスやヘンリ８世の肖像画を描いた画家を１人選べ。

a　ホルバイン　　b　ブリューゲル
c　デューラー　　d　ファン ＝ アイク兄弟

5　以下の人物と活躍した都市との組み合わせのうち，誤っているものを１つ選べ。

a　ルター ―― ヴィッテンベルク
b　ツヴィングリ ―― チューリヒ
c　カルヴァン ―― ジュネーヴ
d　トマス ＝ モア ―― フィレンツェ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈*Note*〉

確認テスト　第２講　解答

１　d　　２　b　　３　c　　４　a　　５　d

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

確認テスト　第３講

1　アテネのパルテノン神殿の建築様式を１つ選べ。

a　ドーリア様式　　b　イオニア様式
c　コリント様式　　d　ルネサンス様式

2　以下の聖堂のうち，ゴシック建築でないものを１つ選べ。

a　ノートルダム大聖堂（パリ）　　b　ピサ大聖堂
c　ケルン大聖堂　　d　シャルトル大聖堂

3　以下のうち，古代ローマの遺跡（歴史遺産）と無関係のものを１つ選べ。

a　パンテオン　　b　コロッセオ
c　カラカラ浴場　　d　クノッソス宮殿

4　以下の建築と様式の組み合わせのうち，誤っているものを１つ選べ。

a　サン＝スーシ宮殿 ―― ロココ様式
b　ベルサイユ宮殿 ―― バロック様式
c　クリュニー修道院 ―― ゴシック様式
d　サン＝マルコ聖堂 ―― ビザンツ様式

5　ビザンツ皇帝ユスティニアヌス夫妻のモザイクで有名なサン＝ヴィターレ聖堂があるイタリアの都市を１つ選べ。

a　ラヴェンナ　　b　フィレンツェ
c　ヴェネツィア　　d　ローマ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈***Note***〉

確認テスト　第３講　解答

1　a　　2　b　　3　d　　4　c　　5　a

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

確認テスト　第４講

1　以下のうち，ルイ 15 世の時代の重農主義者を１人選べ。

a　コルベール　　b　ヴォルテール
c　デカルト　　d　ケネー

2　以下のうち，汎神論を唱えたユダヤ系オランダ人を１人選べ。

a　ディドロ　　b　ボシュエ
c　スピノザ　　d　フィルマー

3　因果律に対する懐疑を表明しつつ社会契約説を批判した人物を１人選べ。

a　ロック　　b　ルソー
c　ヒューム　　d　パスカル

4　以下のうち“空想的社会主義者”に含まれない人物を１人選べ。

a　フーリエ　　b　エンゲルス
c　サン＝シモン　　d　ロバート＝オーウェン

5　以下のうち，“フランス社会主義”と無関係のものを１つ選べ。

a　フェビアン協会　　b　サンディカリズム
c　ジャン＝ジョレス　　d　ブルムの実験

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈***Note***〉

確認テスト　第４講　解答

1　d　　2　c　　3　c　　4　b　　5　a

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

確認テスト　第５講

1　以下のうち，印象派の人物でない人物を１人選べ。

a　ルノアール　　b　ゴーガン（ゴーギャン）
c　モネ　　d　マネ

2　以下のうち，後期印象派の画家を１人選べ。

a　ミレー　　b　フラゴナール
c　ゴッホ　　d　クールベ

3　以下のうち，スペイン＝ハプスブルク家の国王フェリペ４世の宮廷画家を１人選べ。

a　ムリリョ　　b　ゴヤ
c　レンブラント　　d　ベラスケス

4　以下のうち，フランドル地方と明らかに無関係の画家を１人選べ。

a　ブリューゲル　　b　ファン＝アイク兄弟
c　ルーベンス　　d　エル＝グレコ

5　ロココ時代のフランスの画家で「雅びな宴」の画家の祖と呼ばれる人物を１人選べ。

a　ラファエロ　　b　ワトー
c　フェルメール　　d　セザンヌ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈*Note*〉

確認テスト　第５講　解答

1　b　　2　c　　3　d　　4　d　　5　b

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

確認テスト　第６講

1　以下のうち，舞台が英国でない文学作品を１つ選べ。

a　『カンタベリ物語』　　b　『アーサー王物語』
c　『神仙女王』　　d　『ローランの歌』

2　以下のうち，ルイ 14 世の時代のフランスと無関係の文学作品を１つ選べ。

a　『ル ＝ シッド』　　b　『人間嫌い』
c　『アンドロマク』　　d　『天路歴程』

3　以下のうち，ドイツ観念論哲学とは明らかに無関係な人物を１人選べ。

a　フィヒテ　　b　フォイエルバッハ
c　ミルトン　　d　ヘーゲル

4　理性に対する感情優越，疾風怒濤（シュトルム・ウント・ドラング）という新しい文学観の中心人物でカントと対立し，ゲーテを指導した人物を１人選べ。

a　ヘルダー　　b　ヘルダーリン
c　シャトーブリアン　　d　ワーズワース

5　以下のうち，活動の舞台がアメリカでない作家を１人選べ。

a　エマーソン　　b　ホーソーン
c　ホイットマン　　d　サッカレー

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈***Note***〉

確認テスト　第６講　解答

１　d　　２　d　　３　c　　４　a　　５　d

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

確認テスト　第７講

1　以下のうち，ドレフュス事件に関連し，公開状で新聞紙上に訴えたフランスの作家を１人選べ。

a　スタンダール　　b　フロベール
c　ゾラ　　d　モーパッサン

2　以下のうち，アメリカの自然の中で自給自足の生活を送った記録を作品として残した作家を１人選べ。

a　イプセン　　b　ストリンドベリ
c　ソロー　　d　ゴーゴリ

3　以下のうち，スペイン内戦（1936 〜 1939 年）に，国際義勇軍として参加しなかった作家を１人選べ。

a　ジョージ = オーウェル　　b　アーネスト = ヘミングウェー
c　トーマス = マン　　d　アンドレ = マルロー

4　以下の組み合わせのうち，誤っているものを１つ選べ。

a　スタインベック ――『怒りの葡萄』
b　マーガレット = ミッチェル ――『風と共に去りぬ』
c　カミュ ――『変身』
d　ジョイス ――『ユリシーズ』

5　以下のうち，ソ連の反体制作家ソルジェニーツィンの作品でないものを１つ選べ。

a　『赤い車輪』　　b　『チャタレイ夫人の恋人』
c　『イワン = デニーソヴィッチの一日』　　d　『収容所群島』

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈***Note***〉

確認テスト　第７講　解答

1　c　　2　c　　3　c　　4　c　　5　b

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

確認テスト　第８講

1　以下のうち，男性が著者である作品を１つ選べ。

a　『存在と時間』　b　『全体主義の起源』
c　『大地』　d　『第二の性』

2　以下のうち，ロシア（ソ連）の出身ではない著者の作品を１つ選べ。

a　『ドクトル＝ジバゴ』　b　『静かなドン』
c　『どん底』　d　『西洋の没落』

3　以下のうち，明らかにバロック音楽のジャンルに分類される音楽家を１人選べ。

a　シューマン　b　リスト
c　ヘンデル　d　ブラームス

4　以下の組み合わせのうち，明らかに誤りのあるものを１つ選べ。

a　スメタナ ―― チェコの国民的音楽家
b　ベートーヴェン ―― 皇帝ヴィルヘルム１世との確執
c　モーツァルト ―― オーストリア＝ハプスブルク家との関係
d　ショパン ―― ポーランドの「ピアノの詩人」

5　以下のうち，アメリカの作曲家を１人選べ。

a　ドビュッシー　b　ガーシュイン
c　マーラー　d　ストラヴィンスキー

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈***Note***〉

確認テスト　第８講　解答

1　a　　2　d　　3　c　　4　b　　5　b

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

確認テスト　第９講

1　以下のうち，『世界史序説』の著者で，ティムールと会見した人物を１人選べ。

a　イブン ＝ シーナー　　b　イブン ＝ ルシュド
c　イブン ＝ バットゥータ　　d　イブン ＝ ハルドゥーン

2　以下のうち，セルジューク朝のマリク ＝ シャーの治世の人物でないものを１人選べ。

a　ガザーリー　　b　ニザーム ＝ アルムルク
c　ウマル ＝ ハイヤーム　　d　フワーリズミー

3『集史』は，ラシード ＝ ウッディーンの著作であるが，この人物は，以下のどの王朝の関連人物か，１つ選べ。

a　サファヴィー朝　　b　イル ＝ ハン国
c　ガズナ朝　　d　ムガル帝国

4　以下のうち，自動車を発明した人物を１人選べ。

a　ディーゼル　　b　フォード
c　ダイムラー　　d　ジーメンス

5　以下のうち，“ヘレニズム”という語の生みの親で，1848 年のフランクフルト国民議会にも参加した人物を１人選べ。

a　ランケ　　b　ドロイゼン
c　ギゾー　　d　クローチェ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈***Note***〉

確認テスト　第９講　解答

1　d　　2　d　　3　b　　4　c　　5　b

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

確認テスト　第 10 講

1　以下のうち，前漢の武帝の時代に董仲舒の献策で設置された機関を１つ選べ。

a　五経大全　　b　五経正義
c　五経博士　　d　五体清文鑑

2　道教とは新天師道のことであるが，天師道と新天師道の関連人物の組み合わせで正しいものを１つ選べ。

a　張角 ―― 孔穎達　　b　張角 ―― 寇謙之
c　張陵 ―― 孔穎達　　d　張陵 ―― 寇謙之

3　以下のうち，仏図澄，鳩摩羅什らの西域僧が活躍した時代を１つ選べ。

a　春秋戦国時代　　b　五胡十六国時代
c　南北朝時代　　d　五代十国時代

4　以下のうち，性悪説に立脚した論を展開した人物の組み合わせとして正しいものを１つ選べ。

a　孟子，墨子　　b　孟子，韓非
c　荀子，墨子　　d　荀子，韓非

5　以下のうち，道教に儒教･仏教を融合した全真教を創始した人物を１人選べ。

a　顧愷之　　b　王重陽
c　郭守敬　　d　洪秀全

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈*Note*〉

確認テスト　第 10 講　解答

1　c　　2　d　　3　b　　4　d　　5　b

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

確認テスト　第 11 講

1　以下のうち，宋の時代に性即理説と心即理説を唱えた人物の組み合わせとして正しいものを１つ選べ。

a　朱熹 ―― 陸九淵　　b　朱熹 ―― 司馬光
c　王安石 ―― 陸九淵　　d　王安石 ―― 司馬光

2　以下のうち，明代に“童心”を唱えた陽明学左派の儒学者を１人選べ。

a　李卓吾　　b　黄宗羲
c　顧炎武　　d　周敦頤

3　以下のうち，洛陽近郊にある石窟寺院を１つ選べ。

a　敦煌　　b　雲崗
c　竜門　　d　麦積山

4　以下のうち，屈原の詩が含まれている文学作品を１つ選べ。

a　詩経　　b　楚辞
c　春秋　　d　戦国策

5　以下のうち，三武一宗の廃仏（法難）という仏教弾圧に該当しない王朝を１つ選べ。

a　北魏　　b　北周　　c　北斉　　d　後周

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈 ***Note*** 〉

確認テスト　第 11 講　解答

1　a　　2　a　　3　c　　4　b　　5　c

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

確認テスト　第12講

1　以下のうち，漢代の人物でないものを1人選べ。

a　許慎　　b　張衡
c　張儀　　d　張仲景

2　以下のうち，「六朝文化」の時代に該当しない人物を1人選べ。

a　謝霊運　　b　孟浩然
c　陶淵明　　d　王羲之

3　以下のうち，盛唐の文化人でない人物を1人選べ。

a　顔真卿　　b　王維
c　白居易　　d　李白

4　以下のうち，明代に確立した「四大奇書」に含まれないものを1つ選べ。

a　『金瓶梅』　　b　『聊斎志異』
c　『水滸伝』　　d　『西遊記』

5　以下のうち，「時憲暦」という暦と関係のあるドイツ人の宣教師を1人選べ。

a　カスティリオーネ　　b　フェルビースト
c　アダム＝シャール　　d　マテオ＝リッチ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈*Note*〉

確認テスト　第 12 講　解答

1　c　　2　b　　3　c　　4　b　　5　c

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。